公益社団法人霧島青年会議所　第五回次年度理事会　議事録

開 催 日：平成３０年１１月２８日（水）

開会時間：２０時００分

閉会時間：２３時００分　予定

開催場所：ＪＣ会館

1. 開会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　重野　隆太　　君
2. JCIクリード唱和　　　　　　　　　　　　　　　　　板元　幸仁　　君
3. JCIMISSION及びJCI Vision唱和　　　　　　　田上　俊介　　君
4. JC宣言文朗読並びに綱領唱和　　　　　　　　　　木野田　幸平　　君
5. 霧島JC未来ビジョン唱和　　　　　　　　　　　　　　盛田　啓仁　　君
6. ２０１８年度スローガン唱和　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　同上
7. ２０１８年度理事長挨拶

理事長　前田　数馬　君

公務のため、後程。

1. ２０１９年度次年度理事長挨拶

２０１９度理事長　藏元　国明　君

いよいよ、委員長の皆様の事業計画書が審議となります。仕事、家庭と忙しい中で青年会議所活動に時間を割いて頂いたことありがとうございます。また、顧問・監事と助言、ご指導いただけましたこと感謝申し上げます。皆様のご指導があって、ここまで出来たと思っております。先日、九州地区フォーラムに参加してきました。地区・日本に関しましても我々の思い描く事業に近いものが多く、とても実りのある機会となったと思っております。また、今回参加出来なかった人にも参加したメンバーが横の繋がりをもって、内容をしっかりと伝えて頂けましたらと思います。話変わりまして、次年度が始まり２ヶ月が経ちました。皆様の姿を見て、もっともっと自分を高めなければという意識になりました。本年度の事業も終わり、来年の活動をするにあたり、それぞれがしっかりと背中を見せることが出来る様に残り１ヶ月を過ごして頂けましたらと思います。拙い挨拶ではございますが２０１９年度理事長挨拶とさせて頂きます。本日もよろしくお願い致します。

９．２０１９年度次年度顧問挨拶

顧問　竹下　圭一郎君

まず、本会が開催されますこと、お慶び申し上げます。橋事務局長は欠席ですが、ほぼ全員参加で開催できることをうれしく思います。理事長からもありましたが、本日委員長の事業計画が審議となり、２０１９年度の方向性が決まる大事な会になっております。委員長の皆さんに質問です。今、わくわくしている人はいますか？　私も副理事長、委員長と色々な話をさせて頂きました。８００字で文章を作り上げる事、来年度のイメージを膨らませることも大事なのですが、一番大切なことはそれぞれが自分自身と向き合うことが大事だと思います。時間がある中で、もう少し２０１９年度の方向性を作りあげることができたのではないかと若干の後悔は残っておりますが、今の努力は裏切らないし、必ず２０１９年度の力となっていくと思います。全国的にですが、ＪＣとしての存在価値をどのようにあげていくのか。会員数が減少している傾向にあり、なぜ減少するのかを原因から考え、そして、元々持ち合わせているこの地域でのＪＣの役割を今一度副理事長、委員長は考えて欲しい。文章力を高めるだけではない２ヶ月少しの短い期間でありましたが、自己成長や自己開発ができたのではないかと思います。この経験が進むべき方向を導きだしてくれると思います。２０１９年度が高い位置でスタートし、２０１９年度の終わりには自信をもって自分は青年会議所の理事として誇りをもって終えて欲しい。そして、その姿を見た多くのメンバーが次は自分の番だと思わせることが出来る様にしてください。本日は、自信をもって最後まで突き進んで欲しいと思います。本日はよろしくお願い致します。

１０． 議長選出

審議事項：２０１９年度理事長　藏元　国明

協議事項、報告事項：専務　　前田大悟

１１．議事録作成人並びに署名人の指名

議事録作成人：南郷　英俊

　　　議事録署名人：木野田副理事長、板元委員長

１２．出席者及び定足数の確認

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 藏元国明 | 〇 | 鈴吉美絵 | ○ | 木野田幸平 | ○ | 田上俊介 | ○ | 重野隆太 | 〇 |
| 板元幸仁 | 〇 | 盛田啓仁 | ○ | 前田大悟 | 〇 | 南郷英俊 | ○ | 橋正貴 | △ |

　　理事１０名中９名出席により定足数を充たしていることを確認した。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 前田数馬 | △ | 竹下圭一郎 | 〇 | 井上正樹 | ○ | 常盤大和 | ○ |

　　役員４名中、３名出席により定足数を充たしていることを確認した。

１３．議題並びに資料の確認

審議事項３件　協議事項６件　　連絡・報告事項２件　となっております。

１４．議事録承認の件

鈴吉：確認させて頂きました。誤字、脱字、文章構成の修正依頼、修正の確認を行いました。

重野：確認し、不備なきことをご報告させて頂きます。

１５．議題

審議事項１：２０１９年度　副理事長基本方針　鈴吉美絵くんの件

藏元：鈴吉副理事長、よろしくお願いいたします。

鈴吉：第４回目の上程となっております。前回の理事会、正副、事前方針も含め修正させていただいております。詳しくは下の意見と対応をご覧いただき、ご意見等よろしくお願いいたします。

藏元：ありがとうございます。それではご意見、ご質問のある方、挙手にてよろしくお願いいたします。それではご意見、ご質問等ないようですので審議に図りたいと思います。

棄権０票　反対０票　賛成　９票

満場一致にて審議可決となる。

藏元：全会一致で可決とさせていただきます。

鈴吉：ありがとうございます。本来は３回で審議を取らなければならなかったところ、４回までさせていただき、ありがとうございました。２週間かけて自分の中にももっと落とし込めたと今は思っておりますが、足りないところはご指導いただけたらと思います。ありがとうございました。

審議事項２：２０１９年度　副理事長基本方針　木野田幸平くんの件

藏元：続きまして、木野田副理事長、よろしくお願いいたします。

木野田：第４回目の提出となります。赤字が前回の理事会、青字が正副、青のマーカーが臨時の正副、黄色が事前配信の修正となっております。見にくくなっておりますが、よろしくお願いいたします。

藏元：それではこの件につきまして、ご意見、ご質問ある方はいらっしゃいますでしょうか。それではご意見、ご質問等なきようですので、審議に図りたいと思います。

棄権０票　反対０票　賛成　９票

満場一致にて審議可決となる。

藏元：全会一致で可決とさせていただきます。

木野田：今回初めて副理事長を仰せつかりまして、今までは常盤副理事長、藏元副理事長にしてもらった中で、委員長の時は頼り切ってやらせていただきましたが、副理事長がこれほどキツイとはおもっておりませんでした。この２か月間、ＪＣに入って初めて吐きそうになりました。またこれからも勉強をさせていただき、自己成長をしていきたいと思います。また来年は板元委員長と一緒になって頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

審議事項３：２０１９年度　組織図修正議案の件

藏元：続きまして、２０１９年度組織図修正議案の件でございます。こちらについては前回の理事会の報告の中で説明をさせていただきましたが、出向役員で繁盛くんをいれさせていただいておりましたが、諸事情で出向がかなわなくなったため、東井上くにお願いしたところ、快く引き受けてくださいました。この出向役員という形で理事構成メンバーにとお話をさせていただいたところ、そちらも快く引き受けてくださいましたので、このように修正させていただいております。それではこの件につきまして、ご意見、ご質問等ある方はいらっしゃいますでしょうか。なきようですので、審議に図りたいと思います。

棄権０票　反対０票　賛成　９票

満場一致にて審議可決となる。

藏元：全会一致で可決とさせていただきます。それでは審議事項が終わりましたので、専務にお返ししたいと思います。

板元：休憩動議。

　鈴吉、南郷　セコンド

藏元：２０：３５まで

協議事項１：２０１９年度　委員長事業計画　重野隆太君の件について

前田（大）：担当副理事長である鈴吉副理事長、よろしくお願いいたします。

鈴吉：３回目の上程ですけれども、協議からあげさせていただいております。まずは前回の理事会、正副、事前配信の中で多くのご意見をいただきありがとうございました。本日またご指摘をいただき修正を加えておりますが、分かりやすくするために一度全部黒字にさせていただき、本日の修正箇所を青字にて記載させていただいております。詳細は重野委員長より述べさせていただきます。

重野：よろしくお願いいたします。総務研修委員会の事業計画でございます。第２回事前配信まで対応させていただき、本日井上監事からいただいた質問にも対応済みでございます。あとはご確認のほどよろしくお願いいたします。

前田（大）：それではこちらの事業計画について、全体的にご意見、ご質問をよろしくお願いいたします。文字数に関しては８００文字で収まっています。副理事長２名の方、ご意見、ご質問はございますでしょうか。委員長２名の方はいかがですか。監事はいかがでしょうか。顧問はいかがですか。

竹下：質問です。背景１行目、「霧島ＪＣは地域の発展を想い事業を企画・立案し、また、」とありますが、この「また」という言葉は何にかかっているのですか？

重野：企画立案するとともに、の「また」でございます。

竹下：「また」は必要ですか？

重野：「また」がなくてもよいとは思いますが、つなぎとしては必要だと思います。

竹下：何に対してのつなぎなのか教えてください。

重野：文章構成のつなぎと考え記載しております。

竹下：何につなぐためですか。

重野：「事業を企画・立案し」、と「会員の能力開発」をつなぐために入れました。

竹下：「また」を使うということは、事業を企画・立案することと会員の能力開発は別と捉えてよいということですか。

重野：事業を企画・立案というのがまちの部分であり、会員の能力開発が人づくりの部分であると考えております。

竹下：事業の企画・立案には能力開発系はないということでよかったでしょうか。

重野：はい。

竹下：そもそも能力開発とは何か教えてください。

重野：能力開発とは研修事業を含め、研修事業を組み立てる作業も含めての能力開発でございます。

竹下：まちづくりの事業の企画・立案には能力開発は含まれないのですか。

重野：それにも能力開発の部分は含まれておりますが、当委員会は総務研修委員会ということで能力開発を強調した文章となっております。

竹下：重野委員長が無理やり通したいのは分かりますが、能力開発という言葉を使うのであれば、「また」は必要ないですよね。「また」というのは全く違うものなので、別物として捉える場合に使います。能力開発以外の言葉は何かないのですか。

重野：能力開発以外では、修練、自己研鑽の部分になると思います。

竹下：今の言葉を借りるのであれば、「霧島ＪＣは地域の発展を想い事業を企画・立案し、また、会員の自己研鑽を行っています」だったらまだわかります。能力開発だったら、できなかったことができるようになるという意味があります。能力をさらに高めていくとか。「また」という言葉をつけてしまうと、事業に能力開発が含まれていないというニュアンスに取られてしまいます。自己研鑽だったら、また個人のことに変わってきます。その違いが理解できているかできていないかを教えてください。

重野：今の説明で理解いたしました。能力開発という言葉を使った私も悪かったと思っております。

鈴吉：ご意見ありがとうございます。私も顧問と委員長のやり取りを聞いていて、「また」という言葉はいらないと思います。文字数だけでいくのであれば、「また」を削除し、背景３行目の「影響力のある」を「影響力をもった」に変更させていただき、文字数の調整をさせていただきたいです。

前田（大）：確認いたしますと、「また」を削除して、「影響力のある」を「影響力をもった」に変更でよろしいでしょうか。

藏元：重野委員長、今の意見を理解していますか。事業を企画・立案するには能力開発も必要になってくるということです。その上で理解していないと、ただの文字合わせでは意味がないので、あなたの事業計画書ですから、あなたが一番分かっていないと。竹下顧問、それでいいですか。

竹下：本人がそれでいいならいいです。

重野：「また」は削除でお願いします。

前田（大）：鈴吉副理事長、確認です。「また」を削除して、「もった」はひらがなでいいですか。

鈴吉：もったはひらがなでお願いします。

前田（大）：それでは少し修正をして進めていきたいと思います。その他ご意見はございますか。

竹下：今度は中段最後、「この地域の発展に貢献できる人財を育成するために」の文章の結果、「自ら自己成長して行動できる人財を育成します」とあります。育成するために育成しますと書いた意味を教えてください。

重野：文章の間違いでございます。育成するために、成長につなげないといけない文面でした。

前田（大）：もう一度説明をお願いします。

重野：人財を育成するために、育成しますだと確かに読んでみるとおかしいと私も感じます。

竹下：どうしますか。

重野：行動できる人財を…

竹下：ロジック、言葉の組立は分かっていますか。

重野：と、いいますと。

竹下：この文章でいうと、育成するために研修を企画する、その研修を企画した上でどのような結果を求めるかがここには入ってこないとだめです。

重野：自ら率先して行動できる人財を増やしますという結果に修正させていただきたいです。

竹下：そういうことですよね。文字数は大丈夫ですか。

鈴吉：文字数は変わらないです。

前田（大）：重野委員長、確認ですが、「人財を育成します」を「人財を増やします」に修正でいいですか。

重野：はい。

鈴吉：二段落目の最後、「人財を育成します」を「人財を増やします」に修正をかけたいと思います。

前田（大）：その他、結果の部分でご意見、ご質問等はありますか。今言われた２か所を修正したものを再アップいたしましたので、更新していただき確認していただきたいと思います。ver32になります。ご確認いただいた上で、ご意見、ご質問はありませんか。修正もありましたので、少しお時間をいただきます。約３分間、２１時より質問を開始したいと思います。

前田（大）：それではお時間になりましたが、何かございますか。鈴吉副理事長、改めて修正箇所を補足でお願いいたします。

鈴吉：まず背景、１行目の「また」を消して３行目を「影響力をもった」という形に修正させていただきます。２段落目の最後の方の文章の最後を修正をかけております。

竹下：やはり違和感がありますね。人財育成のために増やしますとするとおかしいです。アドアイスとしては導きますとしたら結果につながります。自ら率先して行動できる人財へと導きますとしたりとか。

前田（大）：竹下顧問のアドバイスについて、どうでしょうか。

重野：導きますという言葉は以前使ったことがあるのですが、導いてどうするのかという見解もあったこともあり、おかしくはないですか。

竹下：おかしいけど、本来ならガラッと変えるしかないけど、ここだけ変えるとしたら導くという言葉しかないです。それ以外に今は考え付かないです。例えば、意識を醸成しますとか。何か結果がないといけないですね。この事業内容はどのようなことをするのか教えてもらえますか。

重野：イメージとしては、社会人基礎力を強化すべく、具体的に言うと企業に協力をいただいて、企業研修と言う形で進めていきたいと考えております。そこには社会人基礎力という定義がありまして、一歩前に進んで取り組む力、そしてチームワーク、この２つの分野に特化して行いたいと考えております。

竹下：少しずれていますね。言葉の意味として捉えておいてほしいのは、今意識を醸成するに変更しましたね。この地域に貢献できる人財を育成するためには、まずは意識の醸成、そのために社会人基礎力をつけていくというのがロジックになります。これを事業計画に落とし込み、ニュアンスをきちんと捉えるようにしてください。貢献するために意識を醸成して、意識を醸成する手法として社会人基礎力であったり、失敗を恐れずに何事にも取り組んでいく力というものが必要になるのだということを自分に落とし込んで、事業を進めていってほしいです。この事業で何が必要になってくるかというと、自ら率先して自己成長を求め行動する意識という点ははずさないでください。重野委員長が考えている事業は、その方向ですか。

重野：はい、その方向で間違いないです。

前田（大）：答弁中に誠に申し訳ないですが、ＨＰに再アップしているので更新をお願いいたします。Ver33になります。鈴吉副理事長修正箇所のご説明をお願いいたします。

鈴吉：修正箇所説明。

前田（大）：ご意見、ご質等はございませんか。

鈴吉：理事会の場での修正で申し訳ございません。委員長に落とし込みもできているということで、今の修正で問題がなければ審議繰上げをお願いいたします。

前田（大）：セコンドがあられる方はよろしくお願いいたします。

　　盛田　板元　セコンド

藏元：審議繰り上げの動議がございました。まずは審議繰り上げを可とされる方は挙手をお願いいたします。

全会一致

藏元：それでは鈴吉副理事長、再度ご説明をお願いいたします。

鈴吉：重野委員長の事業計画になります。先ほども説明をさせていただきましたが、数か所修正をかけさせていただいております。ご確認のほどよろしくお願いいたします。

藏元：先ほどお時間をいただきましたので、皆さまにはご確認いただいていると思います。その上で、何かある方は挙手にてお願いいたします。両監事、顧問、何かございますか。ご意見・ご質問等なきようですので審議に図ります。

棄権０票　反対０票　賛成　９票

満場一致にて審議可決となる。

藏元：重野委員長、言葉に魂を込めて一言お願いいたします。

重野：準備不足から、このように右往左往しながらの審議通過となりましたが、これを教訓に準備８割、行動２割。初めての総務委員会ということで、組織を円滑にサポートするという部分をしっかりと勉強しながら、進めていきます。そしてこの８００字を書いている中で好きな言葉ができました。「総務が変われば組織が変わる」。まずは私が変わって、そして委員会メンバーが変わって、それがどんどん霧島ＪＣ全体に広がっていって、そして効果的な研修事業も行いながら、一年間楽しくをもっと広めていけるように頑張っていきたいと思います。

理事長遅参のため再点呼、及び理事長挨拶

理事長挨拶

前田（数）：本日第５回目の次年度理事会の開催、お慶び申し上げます。本日、理事長の充て職としての行事のため遅参いたしました。年末に向けての行事が目白押しになっている中で、先日から正副理事会などされて、副理事長基本方針、そして委員長の事業計画と本当に忙しい中で次年度の準備に必死に走っている姿を拝見させていただいている中で、大変だなと感じているところでございます。その中で、本年度の行事であったり次年度の準備であったりと、この期間は２０１９年度がしっかりとスタートするための準備期間でもありますので、つらい時期ではありますが、それをバネに進んでいっていただけたらと思います。本日は私が来る前に副理事長の基本方針が無事通過されているようで、審議通過本当におめでとうございます。これから委員長の事業計画も協議、そして審議という段取りになっていくかと思います。明日は本年度の理事会が開催され、総会の決議も明日中にはしないといけないなど、ギリギリのスケジュールでございます。そして先日は地域フォーラム、名刺交換会があり、多くの理事役員の方に来ていただき、楽しい時間を共有しながらではありますが、今日、明日と理事会があり、本当に大変な時期ではありますが、体調管理だけには気しっかりと気を付けて、委員長さん方の審議も無事通過できるようにと思っております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

協議事項２：２０１９年度　委員長事業計画　板元幸仁君の件について

前田（大）：担当副理事長である木野田副理事長、よろしくお願いいたします。

木野田：３回目ではありますが、協議であげさせていただいております。ご質問、ご意見等には対応させていただいております。詳細は板元委員長より述べさせていただきます。

板元：前回の理事会での修正は赤、正副は青、正副後の事前配信にてご意見をいただいた箇所は黄色マーカー、さらに事前配信後の修正に関してはピンクマーカーとなっております。よろしくお願いいたします。

前田（大）：事前配信も行っていただき、修正も即座に対応していただいております。全体を通して、ご意見、ご質問はございませんでしょうか。委員長２名、ご意見、ご質問はございますか。副理事長２名はいかがでしょうか。監事はいかがでしょうか。竹下顧問はいかがでしょうか。

竹下：質問です。背景、問題に関して共感の輪を広げていくことが必要というニュアンスで書いていますが、なぜ共感の輪を広げていかなければならないか教えてください。

板元：我々の活動・運動が共感を得られなければただの自己満足でしかありませんので、本当にこのまちを変えたいのであれば、市民の方々に共感を得ながら運動を推進していくことがより力強い運動になると思うからです。

竹下：共感の輪を広げていくうえで必要なことは何か教えてください。

板元：一つは広報という部分ですが、まずは霧島青年会議所がどのような団体であるかを知っていただくこと、また中にいる会員が魅力的になることが必要だと考えます。

竹下：よくわからないのですが。

板元：共感の輪を広げていくことに必要なことは、第一に広報だと思います。まずは市民の方にどのような団体かを知っていただくということ。あとは、団結して行動できる力強い組織となることが必要だと考えます。

竹下：もう少しまとめた方がいいです。なぜ共感の輪を広げていく必要があると思いますか。

板元：我々がやっている活動・運動に共感をしていただくことができなければ、ただの自己満足になってしまうためです。

竹下：その上で、共感の輪を広げていくために必要なことは何ですか。

板元：まず一つ目は、私たちの運動・活動を周知していくために広報が必要であるということと、会員が団結して行動できる力強い組織が必要になってくると思います。

竹下：広報と会報の違いは分かりますか。

板元：広報は広く周知するということ。

竹下：会報の漢字は分かりますか

板元：回る方の「回報」ですか。

竹下：そうではなく、委員会の「会」。

板元：そうであれば、簡単に言えば、外向きか内向きかということでしょうか。

竹下：今委員長が言っているのは会報であって広報ではありません。組織が何をしているのか、どういったことをしているのかを広げるのは会報。広報は、理念であったり、そこで自分たちが何を考え何をやっているのかを発信していかないと広報にはなっていきません。要は、例えばスポーツジムの広報を行うとなった場合に、プログラム内容を広報したり、料金設定を周知したりした場合、それは広告になります。何を広げていくか、何を目的に広報をするのかを捉えていないと、安易にＨＰやフェイスブックをやってしまうと自己満足になってしまいます。自分たちがやっていることをただ出しているだけでは自己満足。何を市民に訴えかけていくかを持たないと、ＪＣのことを知ってもらうだけの広報だったらやらないほうがいい。だから戦略的に広報をしていくことが必要です。青年会議所はこういう団体で、何のためにこんなことをしているんだよというものがないと戦略的な広報にはなりません。ちなみにどんな広報をしようとしているのか教えてください。

板元：広報のイメージとしては、フェイスブック等を継続しながらで、ウェブでだけでなく紙媒体にも戻ってみようかと考えています。内容的には、広報誌を作成して、それぞれの対象にあわせた広報ができればと考えています。

前田（大）：その他、ご意見、ご質問はございませんか。木野田副理事長。

木野田：ご質問等ありがとうございました。これ以上ご質問等なきようでしたら、審議への上程繰上げをさせていただきたいと思います。

前田（大）：木野田副理事長より、審議繰り上げへの動議がございました。セコンドがある方、挙手にてお願いいたします。

田上　鈴吉　セコンド

藏元：それではただいまございました、板元幸仁くんの審議上程を可とされる方は挙手にてお願いいたします。

全会一致

藏元：それでは木野田副理事長、もう一度お願いいたします。

木野田：ありがとうございます。ご確認の上、再度ご意見、ご質問等がありましたらよろしくお願いいたします。

竹下：最後に質問です。１月中までに拡大を何名するか教えてください。

板元：１月までに４名の拡大を行います。

竹下：言った以上はやってください。

藏元：他にございませんか。

常盤：文章とかではなくて、今年委員長になられて、具体的に何をしたいとか委員長同士で話をされたり、何か動いてらっしゃいますか。

板元：今の段階で何をしたいとかは特にしてはおりませんが、できればそれぞれの事業も自分事として捉えられるように合同で何か一緒に行うことができればと考えているところです。

常盤：今はまだ具体的にはまだ動いていないということでしたが、毎年同じことの繰り返しなので、具体的な案を出していただきたいです。ただ合同委員会を行うというだけでなく、今年は経験者も多いですので、皆さんで考えた具体的な案をもって横のつながりを図っていただきたいと思います。

板元：具体的な内容を３委員会でできるように考えていきたいと思います。

竹下：今監事が言われたように、各委員会で１月に１名拡大で行っていただきたい。各委員会で責任をもって、１月に１人いれることを必達でお願いします。

板元：必ず１人ずつ入れさせます。

藏元：それでは他になきようでしたら、審議に図りたいと思います。

棄権０票　反対０票　賛成　９票

満場一致にて審議可決となる。

藏元：板元委員長、今一度意気込みをお願いいたします。

板元：今回、広報と拡大という担いを受けまして、今年も委員長をさせていただき連続でこの８００文字に向き合いました。以前、私が一番最初に委員長になったときに、これほど真剣に仕事に向き合ったことがあるかと考えたときに、ふと思うことがありました。この経験してきたことを来年は思う存分発揮して、自分の口からも言いましたけれども、１月までに４人、各委員会で１人を必ず達成し、メンバーを増やせるように頑張っていきたいと思います。わくわくしています。ありがとうございました。

藏元：この件につきましては、委員長が１人ずつ、あと１名は私が担いたいと思います。

協議事項３：２０１９年度　委員長事業計画　盛田哲仁君の件について

前田（大）：続きまして、盛田委員長についてです。担当副理事長である田上副理事長、よろしくお願いいたします。

田上：色々とご意見をいただきまして、すべて対応させていただきました。忌憚のないご意見をいただければと思います。詳細は委員長より述べさせていただきます。

盛田：前回の理事会対応が赤、正副が青、臨時正副、事前配信での対応が青・黄色マーカーになっています。お目通しいただき、ご意見、ご指摘をお願いいたします。

前田（大）：全体を通してご意見、ご質問をお願いいたします。委員長２名の方々、副理事長２名の方々、監事２名の方々、竹下顧問、何かございませんか。

竹下：地方創生の言葉の意味を教えてください。

盛田：地方創生の言葉の意味といたしましては、地方の人口減少に歯止めをかけて、人口流出を防ぎ、ひいては少子高齢化の防止までを含みます。

竹下：流出人口減少が地域の発展に良くない影響だと思うのはなぜですか。

盛田：良くないと思われる点は、若い世代の人口流出は未来の地域を支える市民の流出だと思いますので、未来の地域の発展には良くないと考えております。

竹下：人口流出、人口減少が地域の発展に対して課題となっていると考えていますか。

盛田：私は、単純ではあるが、人口流出は課題だと考えています。

竹下：では、人口流出を防げればなぜ地域が発展するのか教えてください。

盛田：人口流出を防げればというだけではありませんが、人口流出をまちづくり委員会でまちの魅力を発掘・発信をしながら、若い世代とともに、若い世代に地域の魅力を今一度知っていただくことは、人口流出の防ぐことにつながると考えます。

竹下：地域の発展のために大切なこと、改善しなければならないことは何でしょうか。

盛田：勉強不足ではあるが、市民参画の意識をつくることだと思います。

竹下：地域の発展のために一番大事なのは人です。一番解決しなければならないのは、どのように人を増やしていくかということ。人が集まらなければ地域にはならない。物事の本質は人がいなくなること。人を増やさなければならないということから、この問題はスタートしています。人を増やすには２つしかないのですが、その２つが分かりますか。

盛田：よろしければ、お聞かせ願いませんでしょうか。

竹下：板元委員長。

板元：一つは，他所からの移住、もうひとつは子供を産むことだと思います。

竹下：そう。この２つをはずさないように、頭の中に入れておいてください。この問題か必ず全部そこにつながりますので、そのための市民参画です。地域の人たちがそこで出会い、生活をしていくということが子供が生まれるということにつながり、もしくはその地域がいいから他所から人が来るということになります。その物事の本質をはずさないで進めてもらえればと思います。今事業計画の手法の中でコンテストをしていく等と書かれているが、なぜそれをやるのかという本質を外さずに進めていただければと思います。結果として、移住が増えたり子供が増えたりと、まちづくりは一年や二年で結果が出るものではないから十年後二十年後を見据えた政策というものを立案してほしいと思います。特に１回目の委員長で大変だとは思いますが、１０年後２０年後のスパンが見えていないと、霧島青年会議所がやることは意味がありません。政策を立案するからには、そこにビジョンを持ってやってもらいたいと思います。

盛田：本質を見失わないように、来年１年やっていきたいと思います。

常盤：前回若い世代ということで年齢を記載されておりましたが、今回は年齢が記載されていません。具体的に年齢は考えられているのでしょうか。

盛田：前回まではコンテストではなくアンケートという書き方をさせていただいておりましたが、アンケートの年齢を限定する必要はないのではないかというご意見をいただきましたので年齢は削除しております。ただし、高校生、大学生など１６歳から２３歳の年齢の方を対象に一緒に行える事業を構築していきたいと考えております。もちろん、様々な企業団体も一緒に、結果的には市民全体で作っていく事業にしたいと考えております。

常盤：方向性がぶれないように、流れをきちんと把握した上で進めていっていただけたらと思います。１６～２３というのは、その年代の人たちが出ていかないようにという想いもあると思いますので、その点も考えながら進めていただけたらと思います

盛田：ご意見を参考にさせていただき、よりよい事業にしていきたいと思います。

前田（大）：その他ありますか。田上副理事長

田上：これ以上ご意見なきようでしたら、審議繰上げ上程をさせていただきたいと思います。

前田（大）：田上副理事長より、審議繰り上げへの動議がございました。セコンドある方、挙手にてお願いいたします。

　板元　重野　セコンド

藏元：ただいま審議繰り上げの動議がなされました。まずは上程を可とされる理事の方、挙手をお願いいたします。

全会一致

藏元：それでは審議上程とさせていただきます。田上副理事長、改めてお願いいたします。

田上：よろしくお願いいたします。

藏元：それでは、ご意見・ご質問ある方、挙手にてお願いいたします。両監事よろしいでしょうか。竹下顧問いかがでしょうか。それでは審議に図りたいと思います。

棄権０票　反対０票　賛成　９票

満場一致にて審議可決となる。

藏元：それでは盛田委員長、一言お願いいたします。

盛田：初めての委員長で、事業計画を書かせていただきました。つたない文章ではありましたが、皆さまご意見をいただきましてありがとうございました。特に夜遅くまで質問に答えていただいた田上副理事長、ありがとうございました。この事業計画の中では謳ってないのですが、他の委員会との連携も大事にしていきたいと思っております。来年１年は分からないことも多く、皆さまにご迷惑をおかけすることもあるとは思いますが、よろしくお願いします。

藏元：ありがとうございます。

板元：休憩動議

　鈴吉、重野　セコンド

藏元：上程可

藏元：２２：０５まで

協議事項４：２０１９年度年間事業計画（案）について

田上　　：企画運営・実施とあるのですが、それぞれにの間に点を記載した方が良いと思います。

前田　　：事業名称について～事業と記載されているものと付いてないものがありますが、

使い分けをしているのでしょうか？

藏元　　：こちらの方、事業を付けます。確認不足でした。地域の発展に貢献できるひとづくり事業、率先して行動するＪＡＹＣＥＥづくり事業とさせてください。

常盤　　：総務研修委員会の例会でやったあとに事業というイメージかと思いますが、

　　１週しかありませんが、大丈夫でしょうか？

鈴吉　　：実施時期を見落としておりました。人づくり事業は６月と９月でお願いします。

前田(大)：こちらは６月～９月とさせて頂きます。

常盤　　：総会は定款のなかで、８月か９月という記載となっておりますので合わせて頂けましたらと思います。

前田(大)：総会のところ１月、８月・９月。１２月とさせていただきます

井上　　：年間事業経過を作成して活動するにあたって、顧問から頂いた事業フレームはどこかに提出するのですか。

藏元　　：総会に出す等ではなく、計画書の基本フォルダに入れてやっていきます。

井上　　：実施後に報告として次年度委員長に引継いでもらえましたらと思います。次の委員長が、年間の動きの参考になる。

藏元　　：監事の言われる通り、新しい取り組みの中であったのですが、良いものは残していきたいと思います。

前田(大)：以上、変更等踏まえまして、審議繰り上げを同義させて頂きます。

田上　木野田　セコンド

藏元　　：上程を可とされる理事の皆様は挙手をお願いします。

全会一致

藏元　　：それでは、変更点も含め今一度説明をお願いします。

前田(大)：総会の部分の修正、人づくりの後ろに事業を記載。拡大広報は、ＪＣづくりの後ろに事業を追加。総務の事業のところ企画・運営・実施と記載しました。

藏元　　：ご意見等なければ、審議を図らせて頂きたく思います。

棄権０票　反対０票　賛成　１０票

満場一致にて審議可決となる。

協議事項５：２０１９年度予算書（案）について

前田(大)：事前に顧問・監事とアドバイス頂き、対応しております。説明の方を南郷財政局長よりお願いします。

南郷　　：前回、広報事業の広域性について県と打ち合わせをさせて頂きました。そもそも事前に申請していなければ事業として認められない。という事で執行部の方で検討、顧問・監事にご意見頂き、公２　意識啓発事業としてあげさせて頂きました。

前田(大)：シニアクラブ入会に関しまして確認の上、現段階５名の方がシニアクラブ入会の意思を頂いております。有川さん、野村さんについてはまだ検討中とのことです。

前田(大)：他にご意見なきようでありましたら、審議繰り上げ同義をさせて頂きます。

板元、盛田　セコンド

藏元　　：審議繰り上げを可とされる皆様。

全会一致

藏元　　：ご意見ご質問ありましたら挙手にてお願いします。

常盤　　：事務局費について通信費や消耗品は、金額も変わってきているので質問に答えられるようにお願いします。

藏元　　：ご意見等なければ、審議を図らせて頂きたく思います。

棄権０票　反対０票　賛成　１０票

満場一致にて審議可決となる。

協議事項６：２０１９年度　１月通常総会について

鈴吉　　：１回目の上程となります。正副対応は青字。また、基本フォルダの年間フレームに関しては次回より追加させてください。背景、目的を中心にご意見頂けましたらと思います。

重野　　：過去３年間の資料を確認の上、計画書を作成して参りました。例年通り、新春懇談会より後の開催となっております。ご意見・ご指摘お願い致します。

南郷　　：会場は、やかく亭となっておりますが、会場費は不要で良かったですか？

重野　　：はい。大丈夫です。

前田　　：工夫と期待される効果に総会資料をＬＩＮＥグループでとありますが、このＬＩＮＥは全員入っているのでしょうか？

重野　　：大丈夫と思いますが、改めて確認しておきます。

前田　　：全員入っているのであれば手法としては良いかもですが、他に見られてどうという資料ではないのですが、情報漏洩も心配されます部分と総会資料をＬＩＮＥで確認というのは、どうなのかと個人的に思います。手法を改めて考えてみてください。

重野　　：ありがとうございます。ＬＩＮＥでの配信に関してはセキュリティーの面含め再検討させて頂きます。

藏元　　：事業としては、一発目の事業となります。まずは会員が募る事、そして資料を見ての総会開催をしてほしいと思います。２０１９年度は、参加促進に関してしっかり検証してもらいたく思いますので詳細まで記載の上で、検証までと考えておりますので対応の方お願い致します。

監事講評：　監事　常盤大和くん

常盤：本日、無事に方針・事業計画・予算、事業計画と審議可決となり明日理事会に上程資料が整いましたことお慶び申し上げます。この２週間、みんな頑張っていたと思います。この頑張りが来年度に向けての力を蓄えているのではないかと思います。会議の方では、１議案４０分かけているものもありました。ここは作る場ではないので、執行部としても順番をずらすなどの工夫をお願いします。板元委員長は拡大の目標も言ってしまったので頑張ってください。盛田委員長は、具体的に書けていた様に思いますが、だいぶ風呂敷が広がったなと思いますので、これからのタイムスケジュールや何をしないといけないかというところを頭に入れながら行動頂けましたらと思います。次回、最後の次年度理事会をみんなで迎えられる様に体調に気を付けて頂けましたらと思います。

監事講評：　監事　井上正樹くん

井上：お疲れ様でした。審議通った皆様おめでとうございます。会議の中身については常盤監事より話がありましたので、私は来年度に向けた話をしたいと思います。今年は、今までにないスタイルの基本方針であった中で、作り上げた事はすごいと思いますし、苦労はあったと思いますが事業のやることがより明確になっているので、自信をもって委員会を引っ張っていってもらいたいなと思います。フォローではないですが、本年のブロックでの各委員会の中で、１番機能しているのは重野委員長のところだと思います。担いの全うも大切ですが、次の委員長を輩出するにあたりキツイところを委員会メンバーに見せない、委員会メンバーを引き付けて一緒に活動をすることで機動的な組織、団結力がもてるのかなと思います。先日の地区フォーラムの話ですが、自分は去年も見ている中ですごく良かったと思う。知り合いに聞いたらプレゼンの練習をすごくしたみたいでした。それだけ準備が大事ということです。あとは、どれだけ早く動けるかだと思います。動くことで、すごく良い事業が出来ると思いますので一緒に頑張っていければいいなと思います。

次回開催

平成３０年１２月　５日　　第５回次年度正副理事長会議

平成３０年１２月１２日　　第５回次年度理事会

１７．閉会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　鈴吉　美絵　君

議長・理事長（代表理事）　　　　藏元　国明　　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　木野田　幸平　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　板元　幸仁　　　　　　　　　㊞

監　　　　　　　　　事　　　　　井上　正樹　　　　　　　　　㊞